

平成26年度みえの現場・すこいやんかトーク（玉城町）の概要 【速報版】

6月24日（火）に玉城町でみえの現場・すこいやんかトーク 市町編（玉城町）を開催しました。

当日は、「玉城平成工業会」関係者の皆さん9名にお集まりいただき、皆さんと知事が「企業と地域の連携によるまちづくり」という観点でトークを行いました。

また、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

（「玉城平成工業会」の活動内容紹介）

○異業種交流と情報交換を通じて事業の発展と経営の改善に資するとともに、地域の振興及び住民福祉の向上を図ることを目的に、「桜まつり」への参画・協力や町主催の産業フェアへの出展等に取り組んでいるが、災害時対応が課題となっている。

Q. 活動に参加してのメリットや成果をお聞きしたい。

○当社では、モーターの中に入る人目に付かない物を作っているが、産業フェアで製品を展示すると、住民の方に興味を持っていただけるため、非常にありがたかった。

○賃貸倉庫を、会員の他の企業に使っていただくなど、企業間の繋がりがうまくいっていると喜んでいる。

○産業フェアに参加させていただき、防犯性の高いワンドア・ツーロックをお願いすることで、企業側のメリットだけでなく、住民の方へも貢献できる場になっている。

○台風がきたときや大雪の際、社員を出勤させるかどうかの判断を気軽に情報交換できるところが非常に良いと思っている。

○玉城平成工業会として「桜まつり」の準備などに参加すると、地域との関わりが生まれるところが助かっている。

Q. 地域からみて企業が地域に参加してもらうことの良さは？

○各企業が行う夏祭りに地元住民を招待してもらっているが、相当みんな楽しみにしているので、今年もお願いしたい。また、地元の企業で働きたいという地元住民が増えてくるように、地元企業にはどんどん成長していただきたい。

Q. 皆さんが課題意識を持っている防災に関する意見や行政に対する要望等をお聞きしたい。

○災害時に製品がなくなってしまうというのは、会社の不信用につながるので、事業的な戦略として在庫を持つことが重要である。

○従業員一人ひとりの自助が基本であって、昼間に地震が起こったらどうするのかを家族で決めておかなければ、結局は会社の事業も守れないことになる。

○大雪の際、帰宅途中で坂を登れなくなったことがあったため、どういう道が一番走りやすいかを会社側で考えておくことも必要だと考えている。

○社内の防災要領を作成したとしても、受注先や道路、電気などのインフラがどういう状況になっているかわからないことには、自社だけの対応には限界があるため、行政には適正な情報提供をお願いしたい。

○工場の備蓄品の活用や避難所としての活用等について、情報交換できれば、さらにいい玉城町になると思う。

○インフラの復旧時期を設定し、BCP 活動に取り組んでいるため、町や県でインフラ復旧時期の目標等があるのであれば、お聞かせいただきたい。

○従業員の3割程度は、外国からの技能実習で来ている方たちなので、災害時に、どう救っていくのか、訓練の中うまく取り入れていく必要がある。

○昨年度に防災倉庫をつくり、3日分の飲料水と食料を備蓄している。炊き出しも行えるということで、訓練代わりに、桜まつりなどでぜんざいやレトルトの焼きそば等を無料で振る舞った。

Q. これまでの企業等の取組や課題を聞いて、町長のコメントをお願いしたい。

○企業の方に立地していただくのにふさわしいまちづくりをしていきたいと考えている。絶えず、企業の方と意見交換をさせていただいて、従業員の皆さんにとって、教育や福祉の面でもクオリティの高いまちづくりを目指していきたい。

○防災に関しては、情報提供など何が大きいかしっかりと勉強して、早急に対応できるようにしていきたい。過去の大震災における企業に関する教訓を学ぶとともに、住民の方に神戸の「人と防災未来センター」を見に行ってもらいたいと考えている。

○災害時は、自助・共助、人のつながりが大事なんだという教訓があることから、それを皆さんに大切にしてほしい。

【知事の発言】

○本日は、皆さんにコミット（公約）してもらう場として、非常に良かった。

○皆さんから聞いた防災に関する課題で、大事だと思う共通項を三つ申し上げたい。一つは、BCP を始めとした事前のルール作りをしっかりと行うことが大事である。三重県では、「みえ企業等防災ネットワーク」を設立し、事業所の防災力診断や優良事例の横展開などを行っているため、それらを活用していただきたい。また、

従業員の皆さんも家族防災会議をしっかりとやっていただきたい。

- 二つ目は、とにかく訓練である。訓練は何回やっても、毎回課題が出る。人が変われば、場所が変われば、想定が変われば、絶対に課題が噴出する。それを一個一個つぶすだけでも安心感が出てくる。
- 三つ目は、いざという時の情報ルートを確立すること。地域防災総合事務所を南勢志摩地域活性化局が兼ねているので、地域の情報などを聞いていただくとよい。
- 質問として出されたインフラの復旧時期については、三重県が昨年度とりまとめた地震被害想定調査結果の中で、29市町ごと、地震のタイプごとにインフラへの影響をバーチャートとして載せているため参考にしていただきたい。
- 外国人の皆さんが防災用語がわからない場合に、指さして指示できる「災害時指さしカード」を県で作成したため、活用していただきたい。また、大規模災害が発生した場合、「みえ災害時多言語支援センター」を立ち上げることになっているため、外国人の方をサポートさせていただくことも可能である。
- 今年の4月から三重大学と協同して「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」を設置し、企業の相談窓口も設けているため、是非何かあればご相談いただきたい。
- 県もいろいろと取り組んでいるが、まだまだ企業の皆さんに十分知っていただくまでには至っていないため、県の取組を皆さんに知っていただく努力をしなければいけないと、改めて感じたところである。



【「玉城平成工業会」関係者の皆さん】

「玉城平成工業会」は、幅広い異業種交流と情報交換を通じて事業の発展と経営の改善に資するとともに、地域の振興及び住民福祉の向上を図るために、平成元年に設立された団体で、地元企業等の皆さんが会員となっています。今回は、「玉城平成工業会」に、企業と隣接する集落の自治会長を加えた関係者の皆さんと知事とがトークを行いました。